

第1学年算数科指導案

1. 単元名「ひきざん」(第1時/全10時間)

2. 指導の立場

(1) 単元の目標

10いくつかから1位数をひいて差が1位数になる減法について、「10とあといくつ」とみる見方などに着目して計算の仕方を考え、計算することができる。

知 10 いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる繰り下がりのある減法の計算の仕方を理解し、計算することができる。

思 被減数を「10 といくつ」とみる見方に着目し、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考え、説明することができる。

主 繰り下がりのある減法の計算を用いて身の回りの問題を解決するなど、減法を生活や学習に生かそうとする。

(2) 単元について

これまで、 $15-2$ のようなひき算は、「10 といくつ」の見方で、15を10と5に分け、 $5-2$ をして、10と3で13のように答えを求めてきた。また、「求残」や「求差」、「求補」の場面を、ひき算の式に表し、答えを求めてきた。

本単元は、繰り下がりのあるひき算を扱う。これまで大切にしてきた「10 といくつ」という数の見方に着目し、11~18から1位数をひく繰り下がりのあるひき算の計算の仕方を、数の見方を工夫して既習の計算に帰着して解決させていきたい。また、繰り下がりのあるひき算の仕方には、減加法と減々法があるが、第1時では、「 $13-9$ 」の計算を扱い、被減数13を10と3に分け、10から9をひき、1と3をたす、減加法で考えられるようにしていきたい。

(3) 児童の実態

これまで児童は、10までの数の合成・分解や繰り下がりのないひき算、3つの数の計算、

日時:令和5年10月30日(月)

13:30~14:15(1年生教室)

指導者:

和(繰り上がりも含めて)が20以下のたし算の学習を通して、数や計算に対する理解を深めてきている。しかし、ブロックケースにブロックが10個入っていても、数を数えないと「10」と言えない児童もいる。また、問題文の言葉をもとに演算決定することも慣れてきたが、「求差」の場面を減法の式で表すことに難しさを感じている。ブロック操作を通して求差の場面も減法であることや、大きい数から小さい数をひくことを丁寧に指導していきたい。本単元でも、これまで大切にしてきた、ブロック操作をよりどころとし、計算の仕方を考えさせていきたい。

3. 研究テーマとの関わり

見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方

① 単位時間における数学的な見方・考え方と数学的に考える児童を育てる数学的活動の明確化

毎時間、問題文の言葉をもとに、ブロック操作を結び付けて、「求残」や「求差」の場面であることをとらえ、式に表す活動を丁寧に扱う。

減々法も減加法も、既習の「10といくつ」の「10のまとまり」の見方を大切に、数の構成の見方や考え方を深めていきたい。

② 数学的な見方・考え方を働かせて、考える力が育っているかを見届けるのかを焦点化した指導改善

本時、「 $13-9$ 」の計算で、「3から9はひけない」ことに気付かせ、9をどこからひけばよいか、ブロック操作を通して、「10のまとまり」からひくとよいことに気付かせたい。数えひきをする児童には、「一度にまとめてひくにはどうすればいい」と問い、「10のまとまり」を意識付けたい。本単元は、今後の繰り下がりのあるひき算の基礎となるため、毎時間、式・図・言葉などで表現する活動を通して理解を深めたい。

4. 本時のねらい

10 いくつかから 1 位数をひいて差が 1 位数になる減法について、「10 のまとまり」や「10 といくつか」とみる見方をもとにして計算の仕方を考え、10 のまとまりからひくと計算しやすいことに気づき、計算の仕方を説明することができる。(思考・判断・表現)

5. 本時の展開(第1時/全8時間)

	学習内容	指導・援助・評価
つかむ	<p>1. 問題場面を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>こうえんに 10 にん いました。□ にん かえりました。 なんにん のこっていますか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・条件不足の問題を提示し、公園にいた人数や帰った人数、残りの人数に着目できるようにする。 ・$13-3$ や $19-9$ を扱うことで、「10 とあといくつか」や「10 のまとまり」を意識させ、バラのブロックをとって計算してきたことに気付かせる。 ・3 から 9 をひくことができないことをおさえてから、課題を提示する。 ・9 をどこからひけばよいかを考えさせ、10 のまとまりからひけばよいことに気付かせる。 ・数えひきをしている児童には、9 を一気にまとめてひくにはどうするとよいか、考えさせる。 ・ペア交流では、視点に沿って説明できているかを聞き合い、できていれば、相手のノートに丸をかいて、認め合えるようにする。 ・全体交流では、被減数 13 を 10 と 3 に分け、10 のまとまりから減数 9 をひいていることを確認し、計算の仕方をまとめる。その後、○の図のワークシートを配布し、図でも表すことができることを確認する。 ・練習問題をブロック操作や○の図で見届ける。
見通す	<ul style="list-style-type: none"> ・何人帰ったのか、書いていないから分からないな。 2. □に3や9を入れて考える。 ・$10-3=7$, 7人。$10-9=1$, 1人。 ・ひき算をすればいいんだ。 3. 公園に 13 人いて 3 人帰ったら何人残っているか考える。 ・$13-3=10$で、10人。 ・13は10と3, 3をとって、10。 4. 13 人いて, 9 人帰ったら, 何人残っているか考える。 ・式は, $13-9$。 ・3から, 9はひけないな。 ・どうやって, 計算すればいいのかな。 <p>5. 課題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>けいさんの しかたを かんがえよう。</p> </div>	
考える	<p>6. 自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックで考える。 ・「お話ステップ123」に沿って、お話の練習をする。 <p>7. ペア交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3 から 9 はひけません。はじめに, 13 を 10 と 3 に分けます。次に, 10 から 9 をひきます。さいごに, 1 と 3 を合わせて, 4 です。 ・お話ステップのとおり話げたね。 	
深める	<p>8. 全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックを 1 個ずつとっていくと, 残りは 4 個(数えひき) ・13 を 10 と 3 に分けて, 10 から 9 をひいて 1, 1 と 3 で 4, $13-9=4$。(減加法) ・13 を 10 と 3 にわけて考えればいいね。 ・10 からひいて, 残りをたせば計算できるね。 ・○の図でも, ブロックと同じように, 10 から 9 をとればできるね。 	
まとめる	<p>9. 本時をまとめ, 練習問題(p. 122④1)に取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>13-9 のようなひきざんは, 10 からひくと, けいさんし やすい。</p> </div>	<p>評価規準(思判表)</p> <p>ブロックを用いて、「10 といくつか」に分けて計算し、10からひくと計算しやすいことに気づき、計算の仕方を説明している。</p>